キャラクター名: 瀬戸 遥(せと かなた)

プレイヤー名:

シンドローム	エンジェルハィロゥ エンジェルハィロゥ	ワークス	UGNエージェントB	カヴァー	大学生
オプショナル		年齢	19	性別	男
覚醒	渇望	衝動	自傷	初期侵食率	33 %
出自	疎まれた子	経験	平凡への憧れ	邂逅	殺意

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	0	0	1			1
感覚	6	1	1	2		10
精神	2	0	0			2
社会	0	0	1			1

HP	24
行動値	22
(非装備時)	22
戦闘移動	27
全力移動	54

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	6		ＲＣ	1		交渉		
回避			知覚	1		意志	2		調達	1	
運転：			芸術：	1		知識：			情報：UGN	4	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
光の銃	射撃	10r+6		6		
100↑	射撃	13r+6		7		
通常攻撃	射撃	16r+6				C+天からの目+光の指先+レーザーファン+ピンポイントレーザー
	射撃	21r+6				16dx+5@8　21dx+5@7　侵蝕11

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
コネ:UGN幹部	
思い出の品	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
日常	P 幸福感	N 疎外感		
光使い	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	4	残り財産P：	2

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
C:エンジェルハィロゥ	2	2	メジャー			自動		
効果：	クリティカル値-LV（下限値7）							
天からの目	3	2	メ/リ		自身	対決		
効果：	判定ダイス+LV							
光の銃	4	2	セット		自身	自動		
効果：	武器作成 攻撃力:+LV+2							
光の裁き	4	3	メジャー		単体	シン	ピュア	
効果：	判定ダイス+LV*2 ドッジ不可 シナ1							
光の指先	1	2	メ/リ			シン	Dロイス	
効果：	判定ダイス+LV+2							
レーザーファン	3	3	メジャー		範囲(選択)	シン		
効果：	1シナLV回							
ピンポイントレーザー	4	2	メジャー			シン		
効果：	装甲無視 攻撃力-[5-LV](最大0)							
フラッシュゲイズ	5	3	オート				80↑	
効果：								
真昼の星	★		メジャー	至近	自身			
効果：	遠くのものがよく見える							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

1月16日生まれ。文学部心理社会学科二年。
旧名、忽那 遥(くつな はるか)。
元UGNチルドレンのエージェント。と言っても、年齢的にチルドレンと呼べなくなってきたのでそうなっただけであるため、仕事自体はチルドレンと大差ない。
元々は一般家庭で生まれたが、レネゲイドウイルスの影響か日本人とは思えない色素の薄さと藤色の瞳を持って産まれた。この容姿が原因で、父親は母親が浮気をしたのではと疑い破局。母方に親権があったものの育児放棄され、親戚をたらい回しされたのち孤児院へと入った。
その後UGNに保護され、その際に名前を変えたが、『遥』という字を捨てきれなかった。
チルドレンとして活躍していた頃、とある任務中に伊庭宗一に仲間を皆殺しにされた。以来、仕事の合間をぬっては彼を捜している。
大学に行っているのは、父親が大学の教授で接触する機会が増えるから。自身の所為で離婚させてしまった事への謝罪と誰の子とも分からなかった自身の戸籍に父として名を記してくれた事への感謝を伝えたいと思っているが、勇気が出ず、生徒と教授としての必要最低限の言葉しか交わせていない。
友人……というか親友(自称)がいるが、相手がフェミニストでコミュ力高い分何かとしつこいこともあり、塩対応している。決定的に話が合わない(好きな本や好きな映画は同じなのに語ろうとしても好きな登場人物等の話が決定的に噛み合わない)。
射撃部ではそこそこ上手い、という程度で認識されている。
命令されなければ動けない。道具として使い潰されるのが自身の最期であると思っている。
色々あって『誰かの道を照らす光になりたい』と自身で決めることを覚え始めたが、変に常識的な部分が反映されて妙なところで悩む様になった。